



2022年10月21日

各位

会社名 株式会社 技研製作所
代表者名 代表取締役社長 森部 慎之助
(コード番号 6289 東証プライム)
問合せ先 専務取締役 前田 みか
(TEL 088-846-2933)

気候変動の影響についての情報開示に関するお知らせ

当社は、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）※による提言への賛同を表明いたしました。

温室効果ガスによる地球温暖化がもたらす気候変動は、事業活動にとってリスクとなる一方、収益機会の獲得にもつながります。当社グループは、これら気候変動に関連するリスク・収益機会の特定と対処を経営上の重要な課題の一つと捉えており、自社の事業活動に与える影響について分析・検討し、TCFD 提言に沿ってまとめました。

工事全体の CO2 排出を大きく減少できる「仮設レス施工」の提供、施工時の CO2 排出ゼロを可能とする電動圧入システムの開発、激甚化する自然災害に粘り強く耐える「インプラント構造物」の構築——。圧入技術の優位性を核とする当社グループは、事業そのものが気候変動対策に貢献しており、その推進は「公害対処企業」として創業した当社にとって使命でもあります。

今後も引き続き、気候変動に関連する取り組みを推進するとともに、グローバル・エンジニアリング企業として持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

※TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)

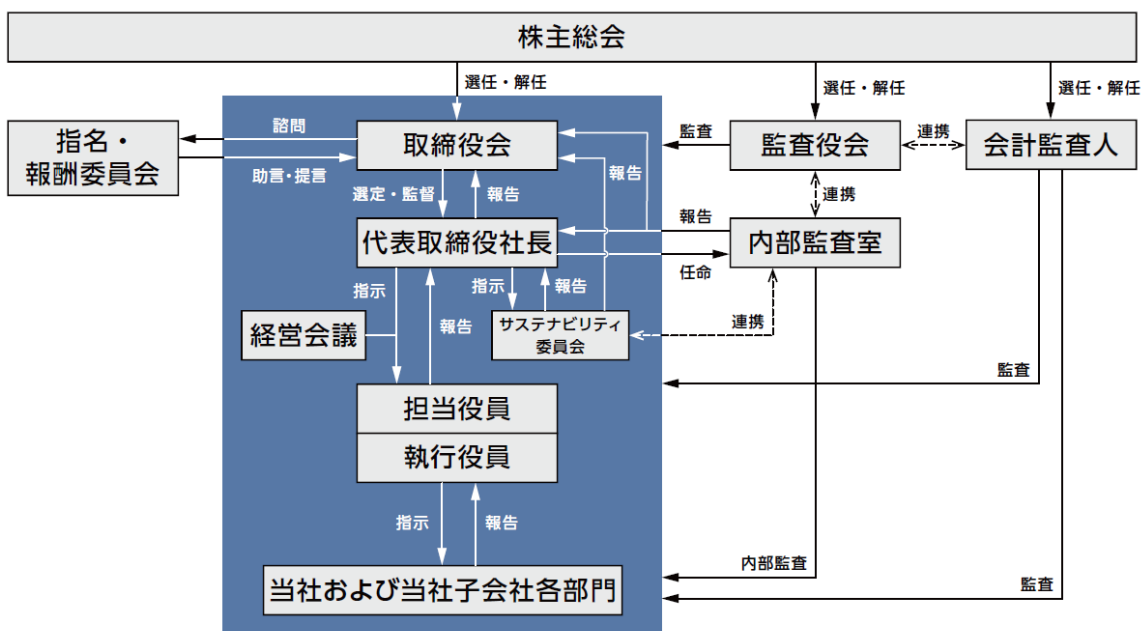
G20 からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について開示することを推奨しています。(TCFD ウェブサイト:<https://www.fsb-tcf.org/>)



1. ガバナンス

当社グループ取締役会は気候変動問題への対応を重要な経営課題の1つとして認識しており、気候変動問題への取り組みを監督しております。具体的には、取締役会において経営戦略や経営計画等について審議を行う際に、必要に応じて、気候変動問題に関連したリスクや機会を踏まえたうえで、意思決定を行っております。また、当社取締役会はサステナビリティに関する取り組みを推進するため、取締役を委員長、経営層ならびに次世代を担う管理職候補者など代表取締役社長の指名する者を委員とする「サステナビリティ委員会」の設置を2022年10月に決議いたしました。サステナビリティ委員会は、気候変動への対応を含む経営に関する重要な事項に対して、サステナビリティ視点で提言および施策のフォローを行っています。取締役会はサステナビリティ委員会の活動に関する報告を受けるなど適切に監督を実施しています。

■ 業務執行の体制、経営監視および内部統制の仕組み





2. 戦略

気候関連のリスクと機会が当社の事業、戦略、財務計画に及ぼす影響の評価、およびそれに対する対応策を検討するために、以下の前提を用いて、シナリオ分析を実施しました。

分析にあたり、対象は連結決算ベースの全事業、時間軸としては2030年を選択しました。また、シナリオについては、産業革命前に比べ2100年までに世界の平均気温上昇が2℃未満に抑制される「2℃未満シナリオ」と、4℃上昇する「4℃シナリオ」を選択しました。「2℃未満シナリオ」ではIEAのSDSシナリオ（Sustainable Development Scenario）とIPCCのRCP2.6等を、「4℃シナリオ」ではSTEPシナリオ（Stated Policies Scenario）とIPCCのRCP8.5等を選択しました。

シナリオ分析の前提

分析前提	対象		
事業範囲	全事業		
企業範囲	連結決算ベース		
分析対象	2031年8月期時点		
選択シナリオ	気温上昇幅 2℃未満	移行シナリオ IEA ^{※1} SDS	物理シナリオ IPCC ^{※2} RCP2.6等
	気温上昇幅 4℃	移行シナリオ IEA STEP	物理シナリオ IPCC RCP8.5等

※1：IEA（International Energy Agency：国際エネルギー機関）

※2：IPCC（Intergovernmental Panel on Climate Change：気候変動に関する政府間パネル）

まず、気候変動がもたらすと思われるリスク・機会を幅広く洗い出したうえで、影響度が大きくなると予想される項目に絞り込みました。次に、影響度の試算に必要なパラメーターを収集し、2030年頃における財務インパクトについて、2℃未満シナリオと4℃シナリオそれぞれに基づいて試算を行いました。試算の結果に対して、組織戦略におけるレジリエンスを高めるための対応策を検討しました。



気候変動がもたらすリスク

分類		リスク項目	影響度		主な対応策	
			2℃未満	4℃		
移行リスク	政策と法	炭素税導入に伴うエネルギーの調達コスト増加	小	－	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能電力への切替 ● 工場設備の電化 ● 省エネルギーの推進 ● 環境負荷を軽減した原材料の調達とその製造方法をもつサプライヤーの選択 	
		カーボンプライシングの導入	－	中		
		炭素税の導入などによる原材料コストの増加	大	大		
	テクノロジー	低炭素技術、製品への置き換えコスト増加	機械の電動化及びグリーン電力への転換によるコスト増加	大		大
物理的リスク	急性	異常気象の激甚化	台風・竜巻・洪水によって起こる従業員・工場への被害、操業停止・生産減少・設備の復旧への追加投資	中	中	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時のBCP対応強化 生産拠点の増強と分散 主要生産工場への浸水対策
	慢性	平均気温の上昇	従業員の労働環境悪化、生産性低下、人材不足加速、健康リスク対応へのコスト増加	小	小	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社研究開発を進め、省人化施工の実現



気候変動がもたらす機会

分類		機会項目	影響度		対応策	
			2℃ 未満	4℃		
機会	製品とサービス	低炭素排出に寄与する製品およびサービスの開発・拡大	電動ジャイロパイラーをはじめとした環境規制をクリアする製品の開発・市場投入により圧入工法の需要が拡大、収益が拡大	大	小	<ul style="list-style-type: none"> ● 電動化製品の追加投入 ● 排出ガス削減に向けた高効率システムの開発 ● 代替燃料への置換（バイオ燃料）
	市場	新市場の開拓と新商材の積極展開	環境負荷を軽減した移動手段に欠かさない駐車、駐輪スペースを都市に確保するEVエコパーク、エコサイクルの需要が拡大、収益が拡大	大	中	<ul style="list-style-type: none"> ● エコパークの対応 EV 車種拡充 ● 小型 EV エコパークの営業展開
		防災・減災・国家強靱化への取り組み	激甚化豪雨に対する事前対策、土砂災害復旧等、防災、復旧に対するインプラント工法をはじめとした最適ソリューションの提供機会が増加、需要が増大、収益が増大	大	大	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災、早期復旧を可能とする技術提案活動の強化 ● 機能停止なく老朽化インフラを更新する工法の普及推進 ● 海外での工法推進展開
	レジリエンス	レジリエンス対応事業の推進	災害未然防止の取り組みとしてガード工法などの当社工法および当社機械の需要が増加、収益が増大。	大	大	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前防災の案件を増やすための工法普及活動を展開 ● 海外での工法推進展開



3. リスク管理

当社は、企業活動に伴うリスクの的確な把握とその防止、または発生時の影響を最小化に努めることが、企業価値の向上とステークホルダーに対する社会的責任を果たすことにつながると考え、グループ全体を包括するリスク管理体制を構築しています。

重要な意思決定事項に関しては、取締役会に付議し、個別事案ごとにリスクを抽出・評価のうえ、リスクが顕在化した場合の影響を最小化するための対策が妥当であるかについて議論し、意思決定を行っています。気候関連のリスクに関してはサステナビリティ委員会で議論し、取締役会に報告され、必要に応じて審議しています。

また、各部門においては、業務プロセスに内在するリスクを把握し、必要な回避策・低減策を講じたうえで業務を遂行するとともに、内部監査室が、各部門のリスク管理状況を監査しています。

今後はさらなるリスク管理の高度化をめざし、リスク管理体制の強化を進めます。

4. 指標と目標

「公害対処企業」として創業した当社は、これまでも事業を通じて環境問題に対するソリューションを提供し、サステナブルな社会形成に貢献してきました。さらに 2050 年度カーボンニュートラル達成に向けた取り組みを推進すべくグループの活動に伴う CO2 排出量の削減目標を策定しました。

CO2 排出量削減目標

指標	2021 年 8 月期 排出量	目標年度	目標削減率 2021 年 8 月期 基準
Scope 1,2 ^{※1}	3,257t-co2	2031 年 8 月期	▲42%
Scope 3 ^{※2}	234,351t-co2	2031 年 8 月期	▲25%

※ 1 Scope1:燃料などの使用による直接排出

Scope2:購入電力などのエネルギー起源の間接排出

※ 2 Scope3:Scope1,Scope2 以外の間接排出

以上